

## 金皇寺文書の発見について

### 1. 発見から寄付までの経緯

令和2年10月、宗教法人解散手続きを進めている浄土宗金皇寺（こんこうじ：大田市仁摩町大国）より、同寺に保管されている歴史資料の取り扱いについて石見銀山世界遺産センターに相談があり、現地での確認調査を行うことになった。

令和2年10月、金皇寺において、島根県・大田市が石見銀山遺跡総合調査として実施していたところ、同寺から古文書などを発見した。大田市と関係者による協議の結果、同寺から令和2年12月に市に寄贈され、現在は世界遺産センターで保管している。

\*金皇寺：戦国時代の元亀元年（1570）に石見銀山の極楽寺住職・良休によって創建

### 2. 古文書類の概要

江戸時代以降に書き記された寺の帳簿や記録、有力な檀家から土地を寄付された際の証書類、檀家の先祖供養に関する証文・記録類などが中心であったが、この中には中世に石見銀山を支配した戦国大名に関係する古文書5点も存在していた。このほかにも明治時代の有力な政治家が書き記した扁額なども確認している。

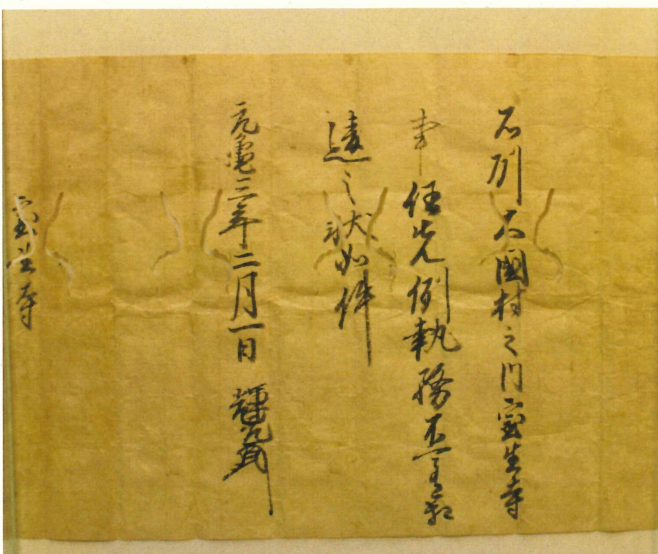
### 3. 古文書類の価値・歴史的意義

中世～近代に至るまでの長期間にわたる史料約300点が比較的良好な状態でまわって残されており、石見銀山周辺における浄土宗寺院の展開を追うことができる。とりわけ毛利氏や吉川氏といった戦国大名が発給した文書が保存されていた点は大田市内でも大変珍しい事例である。さらにこれらの中世文書はすべて新発見の史料であり、戦国時代の石見銀山周辺における寺院と戦国大名の関係を伝える貴重な存在といえる。

### 4. 企画展「戦国大名毛利氏と石見銀山<sup>皇</sup> —まぼろしの古刹 保国山金光寺の中世文書から読み解く—

(1) 期間 3月20日（土）～4月11日（日）

(2) 場所 石見銀山世界遺産センター第3展示室（大田市大森町イ1597-3）



主な史料の紹介

【毛利輝元安堵状】（もうりてるもとあんどじょう）

元亀3（1572）年、石見銀山を支配した戦国大名の

毛利輝元が出した安堵状。金皇寺の末寺であった宝

生寺をこれまで通り保護することを認めたもの。